

日韓トンネル通信

編集/発行
特定非営利活動法人
日韓トンネル研究会

本部事務局：東京都港区麻布台1-1-20
〒106-0041 麻布台ユニハウス
TEL 03-3589-4188 FAX 03-5570-1634
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：福岡市南区老司3-5-28-605
〒811-1346
TEL 092-556-7110

(報 告)最新の中国鉄道・物流事情視察団に参加しました。

去る10月10日(金)から17日(金)にかけて、(社)日中科学技術文化センター主催の「最新の中国鉄道・物流事情視察団」に当会九州支部の井出然理事が参加した。この視察団には当会の野澤太三会長が日中科学文化センター会長として団長を務め同行した。一行は北京～天津～瀋陽～丹東～大連～旅順など中国東北部を巡り、中国の物流基地などを視察したほか、世界最速の鉄道にも試乗した。



北京～天津間を走る世界最速350Kmの高速列車

(報 告)日韓トンネルに関する新ルート案の考え方に関する説明会を行いました。

去る10月28日(火)、韓国ソウルで(社)韓日海底トンネル研究院に対し日韓トンネルの新ルート案選定の考え方を説明した。日本側は野澤太三会長、濱建介副会長、藤橋健次常任理事ら5名が、韓国側からは社団法人のパク・キョンブ(朴慶夫)理事長ら6名が参加した。

また10月29日(水)には韓国慶尚南道の



ソウルで開かれた新ルート案の考え方に関する説明会

チャンウォン(昌原)市で、慶南発展研究院に対し同様の説明をした。日本側は野澤太三会長、濱建介副会長、藤橋健次常任理事ら5名が、韓国側からは慶南発展研究院のイ・チャンヒ(李昌熙)院長ら4名が参加した。

(報 告)釜山市長を表敬訪問しました。

去る10月29日(水)に釜山市のホ・ナムシク(許南植)市長を当会の野澤太三会長、濱建介副会長、藤橋健次常任理事ら5名が表敬訪問し、釜山と福岡を包含する経済圏の形成やそれに係わる日韓トンネルの役割、またトンネルの使い方などについて話しあった。



ホ・ナムシク(許南植)釜山市長(左)を表敬訪問

(報 告)慶尚南道議会の議長を表敬訪問しました。

去る10月29日(水)に慶尚南道のチャンウォン(昌原)市にある慶尚南道議会のイ・テイル(李泰一)議長を当会の野澤太三会長、濱建介副会長、藤橋健次常任理事ら5名が表敬訪問した。慶尚南道は日韓トンネルの想定ルートが通るコジェ(巨濟)島がある。議長からコジェ島を含む地域開発計画について話を聞いた。

(報 告)釜山で「日韓トンネル政策セミナー」を開きました。

去る10月30日(木)に韓国の釜山市にある釜山市上水道事業本部10階の会議室で「日韓トンネル政策セミナー」が開かれた。



(財)釜山発展研究院
イ・ゲシク院長



(社)日韓トンネル研究会
ソ・イテク共同会長



NPO 日韓トンネル研究会
野澤太三会長

このセミナーは、同年8月27日(水)に東京で開催した「海底トンネル研究国際ワークショップ」の場で提案されたトンネルのルート案や使い方などについて、より具体的に論議することを目的としている。

主催は、韓国側の財団法人釜山発展研究院、社団法人日韓トンネル研究会、および日本側の特定非営利活動法人日韓トンネル研究会である。

【主催者挨拶】 主催者挨拶として釜山発展研究院のイ・ゲシク(李啓

植)院長、韓日トンネル研究会のソ・イテク(徐義澤)共同会長、日韓トンネル研究会の野澤太三会長が挨拶した。

【基調講演】 基調講演で社団法人日韓トンネル研究会のホ・ムンド(許文道)顧問が「まず心のトンネルを掘らなければならない」というテーマで演説し、トンネルを作る前提として①過去の歴史に対する懺悔、②脱歪意識の清算、③未来志向の確立を図る必要性、を強調した。



講演するホ・ムンド氏

【主題発表】 主題発表では、最初の演者として日本側から当会の藤橋健次常任理事が「日韓海底トンネル事業の現状と推進課題」というテーマで講演し、日韓トンネル研究会の活動経過、歴代会長の紹介など当会の歴史を報告した後、日韓トンネルの地形・地質など路線選定の基本的条件について語り、さらに日韓トンネルの使用目的と使い方としてカートレインとリニアモーターカーなど各種輸送形態の長所短所に触れ、最後に日韓トンネルの運営管理について、建設と運営を分けて行う上下分離方式が効率的であると述べた。

2番目の演者として韓国側から財団法人釜山発展研究院のチェ・チグ(崔治国) 前任研究員が「日韓トンネルの争点となる事項および基本構想」というテーマで講演した。氏は争点のひとつである路線について釜山と福岡を直結する路線を提示し、韓国側のカドク(加徳)島を経て釜山市の西を流れるナクトンガン(洛東江)の河口付近の開発区域に路線を伸ばし、そこに国際複合ターミナルを建設する案を披露した。その他、争点として交



通手段、トンネルの工法、トンネルの歴史文化的意義について語った。そしてトンネルに関する日韓共同研究に期待すると結んだ。

3番目の演者として韓国側からスンシル（崇實）大学のシン・ジャンチョル（申章澈）教授が「北東アジアの繁栄と日韓トンネルの建設」をテーマに主題発表し、日韓海底トンネルの建設が実現すれば経済的にはもちろん、北東アジアの政治的緊張関係の緩和と政治的安定がもたらされ、朝鮮半島の統一が早期実現し、北東アジアレベルの地域共同体論議を活性化させ、共存共栄の平和体制確立の機会となり、ユーラシア横断運送網構築や日韓の信頼関係の回復、「竹島」紛争の解決、FTA締結の試金石になると語った。

最後に4番目の演者として財団法人釜山発展研究院のキム・ヒョンギョン（金滢均）政策協力所長は「日韓海底トンネルの社会文化的課題」というテーマで語った。まず氏が2週間前に釜山市民を対象に行った日韓トンネルについての意識調査の結果を発表し、約60%が日韓トンネル建設は必要と回答したことなどを報告した。また、真剣な経済交流と協力を保証する

ことなどを日本側に期待すると同時に、日韓交流の歴史に対する誤解と不信を解くことが肝要で、そのためにも事業の名称を「日韓トンネル」から「釜山福岡連絡鉄道（道路）」などに変える必要があると語った。

【討論】 討論では社団法人韓日トンネル研究会のチョン・ホニョン（鄭憲永）理事が司会を担当した。主催3団体の各代表と主題発表者に当会の濱建介副会長らが加わり、基調演説や主題発表の内容などについて活発に討論した。技術的側面では、日韓トンネルが構想の段階から現実的課題になりつつあるので最も建設しやすく費用対効果が大きいルートを選定すること、貨物列車の走行を前提にトンネル勾配やそれを可能にする出入り口を設定すること、などが意見として出された。またプロジェクト推進には広く市民から賛同を得ることが大切なため、特に韓国側からみて心理的違和感の強い「唐津」を始終点としないこと、あるいは日韓両国以外の周辺国がプロジェクトに参加しやすいように「日韓トンネル」という名称を変えるなどの提案があった。日韓両国間の心の通うトンネルを作ることがこのプロジェクトを実現す

る最大かつ最も緊急な仕事であると確認された。

最後に司会者が路線など技術的な課題に対しては早急な論争をさけ、プロジェクトを成功させるために生じる各段階での課題や問題点について整理してゆくことに本日のセミナーが帰着したと述べ、セミナーを終えた。

(報 告)日韓トンネルの韓国側出入り口候補地を視察しました。

去る10月31日(金)、釜山発展研究院および韓日トンネル研究会の案内で、釜山市が開発を進めている洛東江付近の新開発区域カンソ(江西)地区を視察した。釜山発展研究院は日韓トンネルの最適路線として、カドク(加徳)島を北上し、この区域に建設する複合ター



カンソ(江西)地区の新開発地域を視察

ミナルに接続する路線を検討している。

(報 告)韓国で開かれた「海底トンネル国際シンポジウム」に参加しました。

去る11月14日(金)、韓国ソウル江南区の東部金融センターで、「国連が定める地球の年韓国委員会 海底施設物遮蔽技術研究団」が主催し、韓国地質資源研究院などが後援する「海底トンネル国際シンポジウム」が開かれた。シンポジウムでは韓国・中国・日本の海底トンネルを中心に議論された。参加者は200名を越える盛況であった。当会からは韓国地質資源研究



海底トンネル国際シンポジウムに参加

院からの講演依頼を受けて濱建介副会長が「青函トンネルの工事」、藤橋健次常任理事が「日韓海底トンネルの事業の現状および推進の課題」について発表した。

(報 告)福岡北ロータリークラブで日韓トンネルについて説明しました。

去る1月30日(金)に福岡市にある「福岡北ロータリークラブ」の要請で、野澤太三会長が「日韓トンネルについて」というテーマで講演した。大正時代まで遡る日韓トンネル



講演する野澤太三会長
(WEEKLY REPORTより)

の歴史に触れ、今後、想定される技術分野を含む様々な課題を語り、参考事例としてユーロトンネル、ボスポラス海峡トンネル、青函トンネルの工事や運営状況を紹介した。

(報 告)ルート検討委員会が行われました。

去る2月23日(月)、東京都千代田区の野澤太三事務所でルート検討委員会が開かれた。野澤会長以下13名が参加し、昨年10月、釜山で開かれた「日韓トンネル政策セミナー」で韓国側から提案があったルート案の検討などを行った。